

県央地域の各薬剤師会における「在宅医療を担う人材の確保・育成」の取組状況等

○ 厚木薬剤師会	-----	1
○ 大和綾瀬薬剤師会	-----	3
○ 海老名市薬剤師会	-----	4
○ 座間市薬剤師会	-----	5

在宅医療・介護連携に係る調査

団体名 厚木薬剤師会

担当者名 松崎裕子・曾根智章

検討項目	取組状況	考え、課題等
<p>人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)</p>	<p>人材確保について 紹介会社などを通じての中途募集。 大学・合同説明会などを通じての新卒採用 パートナー制の検討</p> <p>人材育成について 在宅経験者と同様、訪問における注意点や確認事項を OJT にて教育。 在宅に取り組んでいない薬剤師向けに、県薬共催の勉強会の実施。 多職種との顔の見える関係づくり</p> <p>訪問診療について 施設への訪問診療の同行。</p>	<p>以前より求職者も多くなり採用の機会は増えてきてはいるが、神奈川全域で見ると潤沢な状態とは言えない。 どこの薬剤師も、業務内容が増加し煩雑になっているため、疲労困憊な状況で新しい職を探している状況。 働く人の生活状況なども考え、効率も考えた環境作りが課題。 業務教育を受けたパートナー(医療事務)を新たに取り入れ、薬剤師を対人業務に専念させるためのパートナー制度の検討が必要。</p> <p>各薬局で見ると在宅業務のスペシャリストは居るが、情報の共有や問題点の検討など薬局を超えた情報共有までは至っていない。 患者の臨床状態などを目にする機会が少ないため、もう一步踏み込んだ指導は、個々の薬剤師能力に委ねている事が多いのではないかと。 神奈川県を取り組みとして服薬フォローアッププロジェクトが行われていくと思うが、参加薬局を増やす取り組みが必要。 多職種連携の講習会が何度か開催されているが、参加してこない方々をどうやって連れ出すかが問題。また参加できる状況にするには、どうすればよいかも検討が必要か。</p> <p>施設への訪問診療の同行はほぼ必須で行われている。入居者の状態確認をして医師とともにその場で処方カンファレンスができるので服薬指導や生活に</p>

検討項目	取組状況	考え、課題等
	<p>多職種連携について 顔の見える関係づくりにおいて薬剤師会などの主催でイベントを企画する。</p>	<p>関する指導などにもつなげやすい。 課題としては個人在宅への訪問診療の同行がなかなか難しい状況であること。</p> <p>多職種連携において現在、点として活動している事業所が多い。これらを線でつなげられるようにしていくことが大きな課題。ICT化の実現や、他市などをモデルにして模していくことも必要かと思われる。</p> <p>一人の介護サービス利用者において取り巻く環境は様々で、一側面、平面でのサービスでは賅いきれない。ご利用者を中心にして立体的に囲んで生活をフォローしていくことが重要である。そのために連携が必要となる。多職種が連絡を取り合えるツールを構築することが必要。</p>

検討項目	取組状況	考え、課題等
<p>人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、平成 29 年 9 月に大和市 9 包括に対して、『地域包括支援センターサポート薬局』として、会員所属の薬局(2 薬局)をそれぞれ配置した。 2、『薬』がキーワードとなっている個別地域ケア会議や日常生活圏レベルの地域ケア会議に薬剤師が参加した。 3、大和市内の介護支援専門員 42 名を対象に、テーマ『薬剤師居宅療養管理指導の実際』として解りやすく説明した。 4、大和市訪問看護連絡会と共催の「情報交換会」を 9 月 12 日に開催予定。 5、『大和保健医療福祉ネットワーク』に参加。 6、綾瀬市を 3 地域に区分した多職種連携会議に、地域包括支援センター地域内の薬局薬剤師が参加した。 7、介護者教室の講師として「お薬の話」を講演した。(サポート薬局の薬剤師) (延べ 5 回) 	<ol style="list-style-type: none"> 1、今後は、全ての介護保険サービス事業所(訪問看護ステーション・訪問介護事業所・居宅介護支援事業所・小規模多機能……)に『サポート薬局・薬剤師』の配置を検討。 2、在宅に関わる薬剤師の育成として、質の向上を目指したい。

在宅医療・介護連携に係る調査

団体名 海老名市薬剤師会

担当者名 青木 茂昌

検討項目	取組状況	考え、課題等
<p>人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)</p>	<p>○海老名市医師会主催(海老名市歯科医師会・海老名市薬剤師会共催)における、多職種連携会議等への出席や研修会に参加。</p> <p>○薬剤師が在宅医療へ踏み出せるようサポートしていくための研修会開催</p> <p>H26年度～ 会議等への出席</p> <p>H28年度 第1回在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会への参加</p> <p>H28年度 薬剤師会主催研修会 「在宅のイロハ」</p> <p>H29年度 第2回在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会への参加</p> <p>H30年度 第3回在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会への参加</p> <p>H30年度 薬剤師会主催研修会 「在宅医療における薬剤師の関わり」</p> <p>今年度も薬剤師会主催の研修会を2月頃開催予定</p>	<p>○多職種連携研修会が毎年開催されることで、多職種の方々と交流がもてるようになった。</p> <p>在宅医療の経験のないDr.が参加され、その後在宅医療を始める方がでてこられたことは、喜ばしいことと思う。しかし、まだ不足状態のため、在宅医療を行う先生が増えていくことを望む。</p>

在宅医療・介護連携に係る調査

団体名 座間市薬剤師会

担当者名 原 延正

検討項目	取組状況	考え、課題等
<p>人材確保・育成 (訪問診療、服薬指導、多職種連携、環境整備等、在宅を担う人材に係る諸課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・座間市地域在宅医療・介護連携支援室の座間市内医療・介護事業所情報リストの作成に協力している。 ・現在、座間市内の薬局で在宅業務を行っている薬局は数件である。(行政の期待にはまだまだ応えられていないと考えている) ・個人宅のみ、施設のみ、個人宅及び施設の両方を受け持っているパターンがある。 ・他職種連携については残念ながら不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していく。 ・在宅業務に不慣れな薬局が多かったり、人員確保が難しいことが理由に考えられる。 ・在宅業務については薬剤師会の中で研修会を開いたりしている。 ・薬剤師個人個人の在宅業務への意識は低い。 ・在宅業務のパターンは処方元の医療機関の往診体制の影響が大きい。 ・薬局の人員や体制によっても対応できる在宅業務パターンが限られることも。 ・他職種との合同研修会等の企画・参加は常々必要であると考えてはいる。